

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第12回松阪市学校規模適正化等に関する検討委員会
2. 開 催 日 時	令和4年10月18日（火） 13時30分～14時20分
3. 開 催 場 所	松阪市教育委員会事務局 教育委員会室
4. 出席者氏名	（委員）◎竹内委員、○伊藤委員、中野委員、鈴木委員、西村委員、北村委員、中山委員（◎委員長 ○副委員長） （事務局）中田教育長、刀根事務局長、村田事務局次長、尼子参事兼教育総務課長、北畠教育政策担当主幹、南教育政策担当主幹兼教育政策係長、河合教育総務課教育政策係主任
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	3人
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局教育総務課 TEL 0598-53-4381 FAX 0598-25-0133 e-mail syom.div@city.matsusaka.mie.jp

検討項目

- ・ 書面協議結果などの確認
- ・ 答申案の最終確認
- ・ 答申案の承認

議事録

別紙

第12回 松阪市学校規模適正化等に関する検討委員会議事録

1. 日 時 令和4年10月18日（火） 13時30分～14時20分
2. 場 所 松阪市殿町1315番地3 松阪市教育委員会事務局 2階 教育委員会室
3. 出席者 委員：竹内委員、伊藤委員、中野委員、鈴木委員、西村委員、北村委員、中山委員
事務局：中田教育長、刀根事務局長、村田事務局次長、尼子参事兼教育総務課長、北畠教育政策担当主幹、南教育政策担当主幹兼教育政策係長、河合教育総務課教育政策係主任
4. 内容
 1. 教育長あいさつ
 2. 前回検討事項の確認
 3. 検討項目について
 - ・ 書面協議結果などの確認
 - ・ 答申案の最終確認
 - ・ 答申案の承認
5. その他
内容は以下のとおり

委員長 委員の皆さん、今回も闊達なご議論のほどよろしく申し上げます。
それでは事項1、教育長からあいさつをお願いします。

教育長 (あいさつ)

委員長 ありがとうございます。
それでは、事項2の「書面協議結果などの確認」について、資料1になりますが、事務局から説明をお願いします。

(事務局の説明)

委員長 書面協議結果などの確認、資料1と、併せて資料2-2の修正箇所について、事務局から説明していただきました。ご意見・ご質問はございませんか。

(なしとの声あり)

委員長 ご意見・ご質問は無いようですので、答申案の承認手続に入っていきたいと思えます。答申内容につきまして、事務局から改めて概要説明をお願いします。

(事務局の説明)

委員長 答申案につきまして、事務局から説明していただきましたが、ご質問等ありますか。それでは、答申案につきまして、ご承認いただける方は挙手をお願いします。

(委員 挙手)

委員長 ありがとうございます。挙手全員ですので、本案につきましては、ご承認いただいたものとさせていただきます。今回の検討委員会終了後に、委員長名で教育長に答申させていただきます。

次に、事項3の「その他」です。

先ほどのご承認をもちまして、答申内容が固まりましたので、今回が最後の検討委員会となりました。委員の皆さんには大変ご苦勞をおかけしました。ありがとうございました。

こうしてお集まりいただくのも、本日が最後となりますので、検討委員会委員としての約2年間を振り返っての感想やご意見をいただきたいと思います。

委員 今年度になってから参加させていただきました。委員の皆さん方が、3年近くに及ぶ中で、いろんなところを見ていただいたり、意見を聞いていただいたりした中で、の発言ですので、すごいなと感じさせていただきました。副委員長という重責をいただいたのですが何とか追いつきたいと思って、しっかり勉強もさせていただきましたのですが、なかなか委員長をお支えすることが難しかったと思うところもあります。ただ、でき上がったものが、松阪の教育をどうしていくのかというところから議論をいただいて、そのための環境をどうしていくかというあたりも随分時間をかけて議論させていただきました。今後、これを基に教育委員会の方で実際の計画が立てられ、進んでいくと思うのですが、やはり1番重要な、松阪として子どもたちをどのような環境で育てていくのかというところを、直接関わる学校の教員や保護者、そこを支える地域の方々全員に知っていただくことがとても重要になると考えています。教育委員会から、いろんなところで説明いただくとは思いますが、私は小中学校の校長会から出ていますので校長会の方でも共有させていただきながら、今後進めていただく適正規模や適正配置が松阪の教育を支えるものになるように、いろんなところで協力できるかなと考えております。ありがとうございました。

委員 私も4月から参加させていただきました。皆さんが、大きい視野で考えていただいているのを聞かせていただき、勉強させていただきました。教職員だけではなくて保護者や地域、学校が連携して行って、丁寧に対話していきながら進めていく必

要があることだと思っています。それが子どもたちの学びに繋がって、充実させていく、より良いものにしていくということだと思しますので、そういった対話を大切にしながら進めていただければと思っております。勉強させていただきましてありがとうございました。

委員 この場に加わることができて、非常にありがたかったです。年の離れた委員と一緒させていただいたこともありがたく思います。いろいろな意見もあるでしょうし、スタートした時はどうなるのかと、非常に心配していましたが、こうやってまとめていただいたのは事務局を始め、皆さんのご努力のおかげだと思います。この後、まだまだ大変なことが続くと思いますので、またいろいろとご尽力いただかないといけないこともあると思います。私をこの委員会へ入れていただき、皆さんと議論させていただいたことに感謝を申し上げて、簡単ですが、お気持ちとさせていただきます。

委員 足かけ3年、どうもありがとうございました。答申案の34ページには委員名簿が載っておりますが、他の皆さんと比べると私はかなり異質な立場で出ていることを最初から感じていまして、今でも感じております。商工会議所を代表して、俗に言う経済界の代表ということで参加しているので、いろんな議題に対して完全に視点が違うということをおそらく皆さんも感じていたと思いますし、私自身が1番感じていて、居心地はあまり良くなかった場面も、正直いくつもありました。日々、切った張ったの商売の中にいるので、若干、きつい言葉を言ってしまったことがあるかなというところも反省しております。先ほど委員が言われたように、最初はどうなるのだという気持ちもあったのですけれども、まあ何となく少し丸くなって、不満なところもあるのですが、着点に行ってよかったと思っています。

教育関係に、私自身が果たしていつ関わったのかなと思っていますと、学生時代に、塾、家庭教師のアルバイトで高校生を教えた時に、自分で勉強するより教えることの方が難しいというのが、当時の私の感想でございました。そして平成の初期にはPTA活動にも参加させていただきました。平成6年に引っ越してまいりまして、当時1番のマンモス校であった山室山小学校から、第一小学校に移ると、この違いは一体何なんだというような形でしたし、第一小学校では短期間でしたけどもPTA会長も経験させていただいて、児童が少ない中で、あの当時も130人ぐらいしかいなかったと思います。PTA会員そのものが100人ちょっとくらいで、おそらく3分の1か、そのぐらいの規模で本当に運営が難しいと感じておりました。そういった意味で、一市民として、いろんな形で教育に関しては、意識を持たなくてはいけないのかなと、この会議に参加させていただいて、改めて感じた次第でございます。3年間ありがとうございました。

委員 まずは、このような会議の場所に、私もPTA連合会、保護者代表ということで、足かけ3年、座らせていただいたことを本当にありがとうございます。私みたいな若輩

者がこのような松阪市の子どもたちの未来に関わる大事な会議を進めさせてもらったことも本当によかったのかなと、いまだに思う時がありながら過ごしてきました。先ほど委員がおっしゃったように、本当にたくさんの立場の方がこの会議に携わってもらっていて、子どもたちのために、学校と保護者だけではなくて、地域やいろんな方に支えられているということであり、保護者自身が学校規模適正化を知ることというのはそこを知ることなのかなと感じさせてもらうことが多かったです。松阪市における教育の魅力は、子どもたちを中心に据えていて、未来を切り拓く力という言葉は、教育長がいつもおっしゃる、不易と流行という部分を本当に捉えていると思います。自分が小さい頃を思い出しても、こうやって温かく地域の人とか保護者の人に見守ってもらった環境というのは絶対変わっていないと思います。そういった方々が、私たちが親となった時に、今度は地域の先輩として、私たちの子どもに対して関わってくれるという部分、地域で見守っていくというところは変わらないと思います。時代は確かに変わっていて、景色が変わっただけではなくて、私たちが学んで、受けてきた教育とは違うけれども、子どもたちが身につけていかなければいけない力は、子どもたちがこれから予測困難な社会を切り拓いていくために、絶対に必要な力です。この検討委員会を通じて、松阪市の教育の根幹に関わる部分を、保護者として学ぶ時間を持たせてもらったということがすごく大切で、これは自分としても、代表というのはおこがましいのですが保護者の立ち位置ということで座らせてもらったので、私は私なりに保護者の皆さんにしっかり伝えていく必要があると感じました。子どもたちを支えるためにいろんな方に携わっていただいて、本当に感謝しかありませんし、こうやって教育委員会の方と対峙して座っていますが、寄り添ってもらおうという意味で向かい合ってもらっているということも改めて感じました。委員の皆さんにも本当にお礼の言葉しかないのと、何よりここまで引っ張ってきていただいた委員長、お疲れ様でした。本当にありがとうございました。また、いろいろとご教授いただける機会があったら、ぜひよろしく願います。本当にどうもありがとうございました。

委員

私はちょっと異質な形で多分、委員に入っているのだろうと思いながら、お話をいただいたと時に、お引き受けしようか、どうしようかと迷った部分もあります。私は、津市の教育長を4年間させていただいている間に、津市の小学校の統廃合の課題として残っていた最後の3地区を統合してきたという、非常に貴重な経験をさせていただきました。津市でのお仕事で、私なりに教育の仕事に一区切りをつけたつもりでおりましたので、お話をいただいた時に、正直、ちょっと躊躇しました。最後の3地区というのは、今のように我々が決めた基準が随分前に決まっていて、それに従って計画も立っていて、統合が進んでいるはずだったのが、なかなか進まなかった最後の3地区だったのです。その時に、夜な夜な地域を回らせていただいて、保護者の方、地域の方、これから子育てをする方とか、いろんな方に集まっていただいて、教育委員会の案を説得していくという立場だったものですから、自分たちの村の自分たちの学校をお前らが潰すのかと、そういう感情を直接ぶつけられる方もいらっしゃいました。

その反面、これから子どもを、小学校へ入学させるという保護者の方からは、うちの子どもたちの将来をどうしてくれるのかと、こんな少人数で、他の学校と全く違う環境で、どうやってこの子たちを育てていったらいいのか、やはり新しい道を開いてほしいというようなご意見を、その会場でお互い、それぞれの立場がぶつかり合うという、そんな姿を見させてもらいました。3 地区ともそれぞれに伝統や特色があり、地域への思いも強くありましたが、何とか、皆さんが地域の子どもたちのために、この地域の教育をより良くするために、この統合をチャンスとして生かしていこうという方向へ気持ちを持っていていただけて、何とか理解していただきました。今、そういう立場を離れて、その統合後における地域の様子を見てみますと、やはり、地域をつくっていく子どもたちの教育はこうあるべきだということを、教育委員会が強く示すことで協力していただけたのだとつくづく感じました。そういう意味では参加させていただいて、よかったと感じています。考え方の基礎というか拠り所はできたのですが、これをどう使っていくかは、教育委員会のこれからの、ある意味、茨の道になるかもしれません。だけど、この3年間、事務局が熱意を持っておっしゃった、未来を切り拓く子どもたちのためにという思いは、これからもずっと大切にさせていただけるし、それを形にしていっていただけると確信しています。ここまでの3年間を、こういうふうにまとめていただいた事務局のご苦勞を感謝しますとともに、申し訳ないのですが、まだまだ頑張っていたいただきたいと思います。これからも子どもたちのために、よろしくお願いします。

委員長

委員全員のご意見をお聞きできたらよかったのですが、今日は4人の方が欠席ですので、最後に私から感想とお礼を述べさせていただきたいと思います。本当に、ほぼ3年間ありがとうございました。最初、適正化ということで、私は教育委員や教育ビジョンの策定にも関わってきましたが、この適正化は大丈夫かなと思って、それも委員長ということで、本当にいろいろな不安もありました。皆さんにいろいろ助けていただきまして、今日この日を迎えることができます。本当にありがとうございます。周りの人々からも、この適正化は難しい、大変な仕事だと、いろいろ言われました。私は大変という字が嫌いで、大変というのは大きく変わっていくことだといつも捉えておりますので、これからたくさん変わっていくことを、我々もいろんな形で応援させていただきたいと思っております。昔から子どもたちは家庭で育ち、学校で学び、地域で伸びると言われておりますけれども、私もまさしくそうだと思います。家庭の力、地域の力、教育の力というのが、子どもたちにとってはものすごく大きいと思います。しかし、このご時世、どんどん児童生徒数が減っている中で、やはり学校がなくなるということは寂しいことだと痛感しております。私自身も昴学園高校という全寮制の学校に勤務しておりました。当時の宮川村の人から、寮に電気がついていると、地域にもものすごく元氣をもらおうと、よく言われました。過疎化や少子高齢化が進んでいる中で、学校が地域からなくなっていくことは寂しく感じます。これからいろんな形で、教育も本当に難しい状況があると思います。委員の皆さんにも言っていただき

ましたように、やはり子どもたちを中心とした教育が大事だと思っております。いろんな議論の中で、貴重な意見もあり、私自身も本当に勉強させていただきました。

これから、教育委員会として地域に入っていただくということですので、お願いしておきたいことを2点述べさせていただきます。答申案の30ページに書いてありますが、未来を切り拓く子どもたち、現在と未来の子どもたちのことを最優先に考えて進めていただきたいということが1つです。もう1つは、検討委員会として、いろんな形で議論を重ねてきましたので、その思いや考えを、保護者にきちんと説明してほしいということです。保護者は学校のサポーターでもありますので、その意味でもきちんと伝えていただきたいと思います。結びになりますけれど、委員の方々に建設的な意見もたくさん出していただきました。ただそれだけじゃなく、無理難題の意見もいろいろ出てきたと思いますけれど、それも受け入れて対応していただきました、中田教育長始め、事務局の皆様にお礼を申し上げたいと思います。これで終わりではなく、松阪の教育、子どもたちのために、私たちがいろいろな形で、微力ながら関わらせていただきますので何なりとお申し付けください。本当にありがとうございました。

教育長

本来ですと、こういう委員会で私が発言する機会は限られているのですが、ありがたいことに、この委員会は何度も発言する機会を設けていただきました。しかし、私が多く発言することで、委員の皆様のご意見が流れてしまい、教育委員会の価値観で答申案が作られてしまうことは避けるべきであるという考えで、控えながら発言させていただいてきたつもりです。いろんな立場の方がいろんな思いを持って、その角度から話を切り開いていただき、まとめていくことができました。一般的な委員会は、すでに事務局案があって、提示された事務局案に対していろいろご議論いただくようですが、この委員会ではそのようなスタイルはやめようと決めてスタートさせていただきました。そして、皆さんの意見に基づいて方向を決めながら、皆さんの文言を拾いながら文章を作っていました。先ほど委員長にもおっしゃっていただきましたけれども、事務局は本当に大変だったと思います。委員の方々のご意見から案を作り、教育長レクで叩き返されることもありました。私は、事務局も成長できたと思います。いろんな考え、いろんな切り口で語られた委員一人ひとりの言葉を使いながら、文章を作っていく、こういう形ででき上がったものは、私たちの宝であり、これをバイブルにして、いろんな方からいただいた宿題を持って、現場へ入らせていただき、地域の方、保護者の方、いろんな方々に、この思いをしっかりと伝えていきたいと思っています。100回でだめなら101回、101回でだめなら102回と、対話を重ねながら進めていきたいと思っています。最後になりますけれども、いろんな思いや熱のこもったご指摘を、皆さんからいただきました。でき上がったものには深まりがあったり広がりがあったり、さらにはその熱を持って作った言葉は、人々の心を動かしていくのかなと思います。本当に3年間、様々な視点でご議論いただき、私自身も勉強させていただきながら、議論を進めていただきましたことは心より感謝申し上げます、最後に発言する機会を作っていただきましてありがとうございました。

委員長 本当に、皆さんありがとうございました。本日予定しておりました事項は以上となります。

 進行を事務局にお返しします。

事務局 ありがとうございました。委員会を閉じさせていただいた後、少し休憩を挟みまして、委員長とお残りいただける委員の皆様から、教育長に対して答申をいただきたいと思ひます。

 これをもちまして、第 12 回松阪市学校規模適正化等に関する検討委員会を終了いたします。本当にありがとうございました。